

左川ちか関連文献目録増補版 補遺

凡例（2022年4月24日現在）

1. 本目録は、「左川ちか関連文献目録増補版」（約 670 点収録、『立命館大学人文科学研究 所紀要』115 号、2018 年 3 月）の補遺であり、約 300 点を収録した。なお、稿者 の最初の文献目録は『左川ちか資料集成』別冊、『左川ちか関連文献目録稿・解説』 （約 490 点収録、2017 年）である。
2. 掲載順序は、巻頭に個人詩集、合集・アンソロジーを掲げ、次におよそ 10 年ごとの 編年順と著者の五十音順に従って収め、最後に参考となる HP を附した。
3. 形態によっては、文献データの末尾に[個人詩集][合集][事典][新聞]と記した。
4. 内容が一つに特化できる文献については、事典・新聞類等を除き、[翻訳][北海道][音 楽][詩歌][小説]等に限定し、これを附した。ただし複数のテーマを広範に議論した 文献も多く、そういった文献への分類表記は省いたため、あくまで便宜的なもの とされたい。
5. 左川ちかの名が記されている『室楽』や雑誌、単行本（『詩抄』など）の広告につい ては、特記事項のある一部を除き、これを省略した。
6. 古書目録や広告類については、ごく一部を除き、基本的には収録しなかった。
7. 海外の文献については、詩の翻訳書を除き、基本的には収録しなかった。他日を期 したい。
8. 各大学の卒業論文・修士論文は公刊が予定されていないため、左川ちかを主題とす るものでもこれを収録しなかった。博士論文はその限りではない。
9. 左川ちか関連文献目録の最新版は <https://researchmap.jp/Chika1936> の「資 料公開」で随時更新して公開することとする。
10. 目録未記載で左川ちかに一言でも言及した文献をご存知の方、また本稿に関してご 意見ご感想をお持ちの方は、ぜひ下記までご連絡を頂戴できましたら幸甚です。

17v00223@gst.ritsumei.ac.jp 又は lh041958@gmail.com 島田龍

【詩集】

□左川ちか著・島田龍編『左川ちか全集』（書肆侃侃房、2022.4）収録詩篇 88、翻訳詩 11 篇、 散文（日記・書簡含）21 篇、翻訳文 11 篇

【合集・アンソロジー】

□串田孫一・田中清光編『花の詩集』（筑摩書房、1995） 1 篇収録「山脈」

- 高原英理編『ガール・イン・ザ・ダーク 少女のためのゴシック文学館』（講談社、2018.7）
1 篇収録「緑の焰」
- 長山靖生編『ロマンチック・ドリンカー 飲み物語精華集』（彩流社、2019.8） 1 篇収録「緑の焰」
- 栗原敦編『詩のありかに触れるささやかな試み 詩集』（日本近代文学館企画展「詩のありかに触れるささやかな試み」冊子、2019.11） 1 篇収録「The street fair」
- WATASHI-BRAND 編集室「写真×文学」（『OTARU Ture*Dure』13、2020.3） 散文 1 篇収録「私の夜」

【同時代：1920年代～1935年】

- 左川ちか「モスコオ芸術座小話」（『文芸レビュー』1-3、1929.5） 初紹介資料（『左川ちか資料集成』）
- 左川ちか「硝子の道」（『関西文藝』8-5、1932.5） [詩] 新発見資料
- 伊藤整書簡（1926年6月28日川崎昇宛、市立小樽文学館他編『若い詩人の肖像—伊藤整、青春のかたち』に収録、1999）
- 伊藤整「少年の死んだ日」（『雪明りの路』椎の木社、1926／『伊藤整全集1』新潮社、1972）
[詩]
- 伊藤整「九月—Nよ Nよ—」（『雪明りの路』椎の木社、1926／『港街』2、1927.9／『伊藤整全集1』新潮社、1972） [詩]
- 伊藤整「林檎園の月」（『雪明りの路』椎の木社、1926／『伊藤整全集1』新潮社、1972）
[詩]
- 伊藤整「悪夢」（第一次『椎の木』5、1927.2／『雪明りの路』椎の木社、1926／『伊藤整全集1』新潮社、1972） [詩]
- 伊藤整「丘」（『五更』42、1927.9／『伊藤整全集1』新潮社、1972） [小説]
- 伊藤整「アカシアの匂に就て」（『文芸レビュー』2-8、1930.8／『伊藤整全集1』新潮社、1972） [小説]
- 伊藤整「『今日の詩』第三冊の諸作品について」（『今日の詩』4、1931年3月）※「白紙同人の一頁のうちでは左川ちか氏の「出発」が特に立派に思はれた。」
- 伊藤整「編輯雑録」（『新文学研究』4、1931.10）
- 乾直恵「詩」（『今日の詩』6、1931.5） 『白紙』「秋の写真」評
- 岩佐東一郎「尺牘 『苑』第二冊を見て」（第三次『椎の木』3-5、1934.5）
- 大川小学校『第六学年 卒業台帳 [自明治四十三年度 至大正十一年度]』 [北海道]
- 大川小学校『無題（明治36年3月卒業～大正13年3月卒業アルバム）』 [北海道]
- 庁立小樽高等女学校校友会『華園 創立二十周年記念号』16（1927.3） [北海道]
- 庁立小樽高等女学校桜陽会『卒業証書台帳 [自明治四二年三月 至昭和七年三月]』 [北

海道]

- 石川穰治「編輯後記」(『貝殻』2-2.1933.5)
- 小野吟子「作品研究 八月版」(『女人詩』12.1933.11)
- 片岡敏「詩書散見」(『カイエ』9.1934.11)
- 川崎昇「美の権威者」(『陽炎』3.陽炎詩社.1922.9) [詩]
- 川崎昇「母校」(『アカシヤ』1.アカシヤ社.1922.10) [短歌]
- 川崎昇「日曜労働」(『青空』9.青空社.1923.7) [詩]
- 川崎昇「はは」(第一次『椎の木』5.1927.2) [詩]
- 川崎昇「母」(第二次『椎の木』1-2.1928.12) [詩]
- 小暮妙子「新刊紹介 レスプリ・ヌウボオ」(『ごろつちよ』7.1934.12)
- 城左門「編輯後記」(『文芸汎論』6-2.1936.2) [追悼]
- 末松太郎「編輯後記」(『貝殻』3-1.1934.3)
- 杉浦伊作「ごろつちよへの言葉」(『ごろつちよ』8.1935.1)
- T.K.P.「縁木求魚 第十冊作品評」(第三次『椎の木』1-11.1932.11)
- T.K.P.「ペンギンと鶉秋沙」(第三次『椎の木』2-8.1933.8)
- T.K.P.「秋のレパアトリ」(第三次『椎の木』2-11.1933.11)
- T.K.P.「Cyclopean Eye」(第三次『椎の木』3-5.1934.5)
- 萩原朔太郎「丸山薫と衣巻省三」(『四季』3.1935.1/『廊下と室房』第一書房.1936)
- 長谷木早苗「女詩人作品批評」(『ごろつちよ』6.1934.11)
- 春山行夫「雑録」(『詩と詩論』12.1931.6)
- 春山行夫「後記」(『文学』1.1932.3)
- 春山行夫「一九三二年の文学書」(『書物展望』3-1.1933.1) [翻訳]
- 藤村青一「淡水と気温一左川ちか女に一」(『仮説』2、1932年7月/『保羅』近代の苑社、1932年9月) [詩]
- 方等みゆき「後記」(『女人詩』10.1933.5)
- 方等みゆき「後記」(『女人詩』11.1933.8)
- 方等みゆき「作品研究 八月版」(『女人詩』12.1933.11)
- 方等みゆき「“ごろつちよ”の感想(二)」(『越中新聞』1934年5月27日) [新聞]
- 村岡達二「訳者序言」(『別冊新文学研究 ウルフ文学論』金星堂.1933.12) [翻訳]
- 百田宗治「後記」(第三次『椎の木』2-4.1933.4)
- 山村酉之助「フオオヌの森にて」(第三次『椎の木』3-6.1934.6)
- 山村酉之助「藝術手帖」(第三次『椎の木』4-6.1935.7)
- Sham.「新刊紹介左川ちか氏訳の《Chamber Music》」(『新英米文学』1-9.1932.10) [翻訳]
- Y生「第五冊作品批評」(『今日の詩』6.1931.5)
- 無記名「編輯後記」(『今日の詩』5.1931.4)
- 無記名(伊藤整カ)「編輯雑録」(『新文学研究』4.1931.10)

- 無記名（伊藤整カ）「編輯雜録」（『新文学研究』6.1932.5）
- 無記名「消息」（第三次『椎の木』1-7.1932.7）
- 無記名「消息」（第三次『椎の木』1-10.1932.10）
- 無記名（方等みゆきカ）「女流詩人の仕事ぶり」（『女人詩』15.1935.1）
- 無記名「文芸汎論 寄稿家・関係者住所録」（『文芸汎論』5-1、1935.1）
- 沼塑「carnet」（『ごろつちよ』2.1934.7）

【没後：1936～39年】

- 青藻葉一「詩壇一瞥」（『三田文学』11-4.1936.4）
- 伊藤整「幽鬼の街」（『文芸』1937年8月号／『街と村』第一書房.1939.5／『伊藤整全集3』新潮社.1973） [小説]
- 伊藤整「幽鬼の村」（『文学界』1938年8月号／『街と村』第一書房.1939.5／『伊藤整全集3』新潮社.1973） [小説]
- 伊藤整『青春』（河出書房.1938.5／『伊藤整全集2』新潮社.1973） [小説]
- 加藤一「春への招待 江間章子氏詩集」（『海盤車』22.1936.11）
- 庁立小樽高等女学校桜陽会『華園 創立三十周年記念号』21（1936.12） [北海道]
- 庁立小樽高等女学校桜陽会『華園』22（1939.3） [北海道]
- 方等みゆき「あとがき」（『女人詩』18.1936.3）
- マリヤ・カステルスカ著・柳亮訳『ポドラシイの傳説（古代波蘭傳説）』（昭森社.1936.10）
- ※巻末に左川ちか詩集近刊広告
- 百田宗治「卑見」（『文芸汎論』7-4.1937.4）
- 無記名（百田宗治カ）「椎の木社通信」（第三次『椎の木』5-4.1936.4）

【1940年代】

- 伊藤整『鳴海仙吉』（『文明』他.1946～48連載／細川書店.1950／『伊藤整全集5』新潮社.1972） [小説]
- 左川ちか「言葉」（『近代詩』1.文学地帯社.1947.6）
- 左川ちか「言葉」（『車窓』2-9.大阪鉄道局竜華検車区国鉄労組青年部.1947.10）
- 百田宗治「覚書」（『蓬莱』有光社.1943）
- 百田宗治「回想左川ちか」「解說的に 左川ちか」（『現代詩』白井書房.1948）

【1950年代】

- 阿部保「跋」（『冬薔薇』川崎書房新社.1955.2）
- 伊藤整「川崎くら子夫人を葬る詩」（『季節』2-4.1957.10／『伊藤整全集1』新潮社.1972） [詩]
- 梅本育子「プロムナード」（『現代詩研究』43.1954.5）

- 江間章子『詩へのいざない』（柴田書店・1957）
- 現代詩辞典編集部「新領土」（堀口大学・吉田精一・中野重治監修『現代詩辞典』飯塚書店・1950）
- 斎藤昌三「日本限定本人気番附」（『日本古書通信』20-1.1955.1）
- 佐々木桔梗「肉筆挿絵本」（『書痴往来』2-3.1957.9）
- 澤村光博「現代詩の歴史」（『現代詩入門』3-1.雑誌社・1957.1）
- 神保光太郎「椎の木」（伊藤信吉・遠地輝武・北川冬彦・近藤東・西脇順三郎・村野四郎編『世界現代詩辞典』創元社・1951） [事典]
- 春山行夫「左川ちか〈季節風〉」（『北海日日新聞』1954年8月9日） [新聞]
- 福田清人「伊藤整」（『新潮』51-11.1954.11）
- 堀口大学・吉田精一・中野重治監修・現代詩辞典編集部編『現代詩辞典』（飯塚書店・1950）
- 無記名「新領土」 [事典]
- 無記名「限定本時価目録」（『日本古書通信』19-6.1954年6月15日）
- 無記名「限定本時価目録（一）」（『日本古書通信』23-3.1958年3月15日）

【1960年代】

- 菊地康雄『現代詩の胎動期・青い階段をのぼる詩人達』（現文社・1967）
- 諏訪優『女流詩人 詩を愛するあなたのために』（新書館・1966）
- 瀬沼茂樹「伊藤整との出逢い—小説・伊藤整—」（『群像』1964年10月号／『伊藤整』冬樹社・1971）
- 田村隆一「死人の眼」（『展望』95.1966.1）
- 塚本邦雄「ぴっば・ぱっせす—または詩歌における青春」（『短歌』1969年10月号／『序破急急』筑摩書房・1972／『塚本邦雄全集』8巻.ゆまに書房・1999）
- 野田宇太郎『日本近代詩事典』（青蛙房・1961／改題『詩人と詩集』南北社・1967／新装版.沖積舎・1995）
- 武蔵野音楽大学図書館『年間収書目録』（1967.8）→「三善晃 白く」[音楽]
- 早川正行（雅之）「伊藤整論（一）：『雪明りの路』論」（『日本文学誌要』21.法政大学・1968.6）
- 無記名「大正昭和詩集時価目録（下）」（『日本古書通信』25-7.1960年7月15日）

【1970年代】

- 朝森弓子「『女人詩』あれこれ」（『風祭』1977年2月号／『随筆集蒼穹』草原社・1984）
- 市古貞次他「詩歌の〈近代〉」（『日本文学全史』5.学燈社・1978）
- 今村秀太郎「昭森社と蘭台山房」（『古通豆本 23 昭森社本』日本古書通信社・1975）
- 内田るり子『三善晃歌曲集』（全音譜出版社・1971年）
- 右遠俊郎「曾根氏の労作を読む」（『評言と構想』10.1977.7）

- 大橋吉之輔「Sherwood Anderson と三人の日本人（7）」（『英語青年』121-10.1976.1／『ア
ンダスンと三人の日本人』研究社出版.1984） [翻訳]
- 小川和佑「愛と性から描く巨匠の素顔 曾根博義『伝記伊藤整』」（『サンデー毎日』
56-36.1977.8.21）
- くらたゆかり「女人詩と方等みゆき先生」（『歌う詩』1974年12月号）
- 小松瑛子「女流文学展の裏方」（『北方文芸』7-11.1974.11） [北海道]
- 小松瑛子「私の植物誌（31）」（『小樽詩話会11周年記念号』1974.12）
- 昭和女子大学近代文学研究室「近代文芸年表（34）」（『近代文学研究叢書』34.1971.7）
- 昭和女子大学近代文学研究室「近代文芸年表（42）」（『近代文学研究叢書』42.1975.11）
- 白石かずこ「出逢いというハプニング」（『青春のハイエナたちの手紙』三笠書房.1970）
- 曾根博義「伊藤整年譜」（『伊藤整全集24』新潮社.1974）
- 曾根博義「伊藤整の出発—詩人としての恋愛体験—」（『文芸四季』1.1974.11）
- 曾根博義「『海の捨児』論」（『評言と構想』10.1977.7）
- 曾根博義「雑談・伊藤整の生と死」（『燎原』5.1978.10／『私の文学渉猟』夏葉社.2021）
- 竹内清己「紹介 曾根博義著『伝記・伊藤整—詩人の生涯』」（『芸術至上主義文芸』3.1977.
9）
- 塚谷晃弘「コレクション礼讃」（『陶説』245.1973.8）
- 永松定「伊藤整君とのこと」（『伊藤整全集2』月報.新潮社.1973）
- 原子朗「『詩と詩論』をめぐる諸問題—新しい詩史のための反語的詩論」（『日本近代文学』
19.1973.10）
- 飛高隆夫「昭和11年」（『国文学 解釈と教材の研究』23-3「編年体・日本近代詩歌
史」.1978.2）
- 平田武靖「書評クリニック マスコミ書評の評による新刊案内」（『諸君！』1979年8月
号）
- 北海道文学館事務局『北海道文学館報』15（1975.9） [北海道]
- 春山行夫「小樽以来」（田居尚『信天翁』六興出版.1976）

【1980年代】

- 井坂洋子「詩は直感のしわざ、小説は忍耐のしわざ。」（『ことばはホウキ星』主婦の友
社.1985／ちくま文庫.1990）
- 衣斐千代「金光教と我が家」（金光教小樽教会『金光教小樽教会布教満九十年記念誌』1986）
- 江間章子「想いのゆくえ」（初出不明／『＜夏の思い出＞その想いのゆくえ』宝文館出
版.1987）
- 岡野他家夫「本（書物）の番附」（『明治本徘徊』ゆまに書房.1988）※初出不明
- こたきこなみ「ラウンジ」（『ラ・メール』2.1983.10）
- 市立小樽文学館『若い詩人の肖像 伊藤整』（パンフレット.1981） [北海道]

- 出淵敬子・亀井規子・武谷紀久雄・塚野千晶・三神和子・結城淑子「日本における V. Woolf 研究書誌（その1）」（『ヴァージニア・ウルフ研究』1.1984.3） [詩歌]
- 嘉瀬井整夫「昭和モダニズム前後」（『井伏鱒二とその時代』林道舎.1986）
- 佐川章『文学忌歳時記』（創林社.1982）
- 瀬沼茂樹「中野会の頃」（『群像』37-7. 1982. 7）
- 曾根博義「若い詩人の肖像（伊藤整）」（『国文学解釈と鑑賞』1984年11月）
- 日外アソシエーツ編『昭和物故人名録（昭和元年～54年）』（日外アソシエーツ.1983）
- 野崎明弘「コンピューターの実力」（『現代思想』15-13.1987.11）
- 野崎明弘「人間、コンピューター、丸暗記」（『現代思想』16-1.1988.1）
- 藤原菜緒子「をがさべりの風土—澤木隆子ノート」（『ラ・メール』14.1986. 10）
- 保昌正夫「いろいろと好きな本あり—「いろは」体」（『舳板』1984年11月／『保昌正夫一巻本選集』河出書房新社.2004）
- 北海道小樽桜陽高等学校桜陽会名簿刊行会委員会『昭和59年度 桜陽会員名簿』（日本名簿出版.1984） [北海道]
- 余市町立大川小学校開校百周年記念祝賀協賛会編『余市町立大川小学校開校100周年記念同窓会名簿』（余市町立大川小学校.1983）

【1990年代】

- 新井豊美・正津勉・鈴木志郎康「女性詩はこう変わった」（『現代詩手帖』34-9.1991.9）
- 石井久雄「近代詩の一行のながさ」（『計量国語学』18-7.1992.12）
- 梅津時比古「クラシックふぁんたじい 真夏の死」（『毎日新聞』1997年7月8日夕刊東京版） [新聞][音楽]
- 内田道雄「『街と村』幻想考」（『古典と現代』64.1996.9）
- 江間章子「一いま」（『タンポポの呪詛』書肆ひやね.1990／『江間章子全詩集』宝文館出版.1999）
- 小笠原克「伊藤整の青春（上）」（『詩人会議』37-2.1999.2）
- 小原眞紀子「女の時間」（『現代詩手帖』36-12.1993.10）
- 笠原勝朗『英米文学翻訳書目—各作家研究書付』（沖積舎.1990） [翻訳]
- 串田孫一・田中清光編『花の詩集』（筑摩書房.1995） [合集]
- 佐々木桔梗「解説—詩史的視座から—」（『タンポポの呪詛』書肆ひやね.1990）
- 佐々木桔梗「解説」（『江間章子全詩集』宝文館出版.1999）
- 曾根博義「ジョイスと芥川龍之介—ジョイス受容史の点と線（一）—」（『遡河』27.1990.1）
[翻訳]
- 鶴岡善久「福田知子の仕事をめぐって」（福田知子『微熱の花びら』蜘蛛出版社.1990）
[翻訳]
- 永井浩「評論活動」（『北の詩人たちとその時代』北海道新聞社.1990）

- 中村洋子編「著作目録」「年譜」(『人物書誌大系 24 春山行夫』日外アソシエーツ.1992.6)
- 中村洋子「春山行夫覚書・書簡の整理」(『書誌調査 1996』書誌調査研究会.1996.11)
- 中村洋子「蔵書の現在—春山行夫文庫」(『現代詩手帖』40-11.1997.11)
- 中村洋子『春山行夫覚書 小説』(緑の笛豆本の会.1998)
- 檜崎洋子「三善晃の作曲様式序説 - 1950年代から1960年前半にかけての器楽作品と声楽作品の関係をめぐって - 」(『武蔵野音楽大学研究紀要』38.2006.3) [音楽]
- 西原康子「江間章子の軌跡—多彩な花の眩惑」(『ラ・メール』35.1992. 1)
- 城戸朱理「絶対の両義性 吉岡実」(野村喜和夫・城戸朱理『討議戦後詩 詩のルネッサンスへ』思潮社.1997)
- 稗田董平「女人詩」(『富山県文学事典』桂書房.1992)
- 八木福次郎「夭折作家」(初出不詳 1997.8/『古本蘊蓄』平凡社.2007)
- 山本楡美子・柳沢永子編「女性詩集年表」(『ラ・メール』31.1991)
- 無記名「瀬山詠子が『日本歌曲の夕べ』自ら委嘱した日本を代表する傑作4歌曲を」(『毎日新聞』1993年6月10日夕刊東京版) [新聞][音楽]
- 無記名「左川ちか」(北海道新聞社『北海道歴史人物事典』北海道新聞社.1993) [事典]
- 無記名「左川ちか」(永原和子監修『日本女性肖像大事典』日本図書センター.1995) [事典]

【2000年代】

- 赤井都『手で作る小さな本 豆本づくりのいろは』(河出書房新社.2009/増補新版、2014)
- 伊藤礼「父母のこと(二)母の乳房」(『月刊百科』537.2007.7)
- 尾形大「伊藤整論—『青春』の時代—」(『繡』15.早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻(近代)繡の会、2003.3)
- 『核』「追悼小松瑛子」(71.2001.1)→文梨政幸「小松瑛子さんのこと」、高橋明子「小松瑛子さんと小樽」
- 金澤一志「北園克衛略年譜」(『現代詩手帖』45-11.「特集 生誕百年・北園克衛再読」.2002.11)
- 木原直彦『北の風土をゆく 北海道文学ドライブー1・道央編』(イベント工学研究所.2002) [北海道]
- 倉阪鬼一郎『騙し絵の館』(東京創元社.2007年)
- 佐藤将寛「百田宗治と旭川・安足間の人々」(『ヘカッチ』5.2000.10)
- 曾根博義「紀伊國屋書店のPR誌」(『舳板』3期6号.2003.12)
- 武井幸夫「詩人左川ちかについて - 文献に残されている足跡と作品を中心に - 」(余市郷土研究会『余市歴史探訪講座資料集』平成12年度.2000)
- 谷口哲郎「モダニティの逆説[パラドックス]と幽霊—萩原朔太郎と藤田文江」(『オドラデク』3.2005.11)

- 谷口哲郎「藤田文江年譜」(『天秤宮』24.2006.8)
- 外村彰「高祖保略年譜」(『念ふ鳥 詩人高祖保』龜鳴屋. 2009)
- 中村文昭編著『現代詩研究 現代篇』(ノーサイド企画室.2004)
- 日外アソシエーツ『日本著者名・人名典拠録 新訂増補第三版』(日外アソシエーツ.2012)
[事典]
- 原子修「概説 北海道の詩」(北海道立文学館編『ガイド 北海道の文学』.2005.11)
- 坂東里美「モダンガールズその2 夜の花 - 山中富美子」(『contralto』12.2006.3/
<http://www.interq.or.jp/sun/raintree/rain31/moderngirls2.html>)
- 坂東里美「<詩を読む> 純粹詩をもとめて - 荘原照子 - 」(『rain tree』29.2006.4/
<http://www.interq.or.jp/sun/raintree/rain31/moderngirls6.html>)
- 坂東里美「<雨の木の下で> 銀色の魚」(『rain tree』29.2006.4)
- 坂東里美「江間章子 最後の女性モダニスト一九三〇年代の女性前衛詩人たち(2)」(『詩学』62-5.2007.6)
- 中島美幸『日本女性詩史序説 : 文学・戦争・ジェンダー』(愛知淑徳大学博士論文.2003.3)
- 中村洋子「春山行夫覚書—左川ちかの手紙」(『ノワール』1.2001.12)
- 北海道小樽桜陽高等学校同窓会『平成12年度 桜陽会員名簿』(廣濟堂.2000) [北海道]
- 無記名「石神井書林 目録からただよってくる新鮮さと若々しさ」(『東京人』166.2001.5)

【2010年代】

- 青柿将大作曲「錆びたナイフ—左川ちかの詩による—」(左川ちか詩.合唱曲・声楽曲.2011年)奏楽堂日本歌曲コンクール第19回作曲部門一般の部入選 「朝のパン」「青い馬」「錆びたナイフ」 [音楽]
- 石原深予『尾崎翠の詩と病理』(ビイングネットプレス.2015)
- いぬのせなか座「詩(史)はどのように(今)使えるか」(『現代詩手帖』62-4.2019.03)
- 内堀弘「昭森社のこと」(『本の雑誌』43-8.2018.8)
- 内堀弘「下町の古本屋の懸命な好奇心 独学の意欲があれば古書の世界は一生学校だ」(『図書新聞』2019年10月5日)
- 浦西和彦・増田周子・荒井真理亜編『大阪文藝雑誌総覧』(和泉書院.2013)
- 江田浩司「佐藤弓生第三歌集『薄い街』を読みながら。」(「万来舎 短歌の庫 第178回」
<http://banraisha.co.jp/humi/eda/eda178.html> 2011年6月24日/『緑の闇に拓く言葉[パロール]』万来舎.2013)
- エリス俊子「モダニズムの身体—一九一〇年代～三〇年代日本近代詩の展開—」(中央大学人文科学研究所編『モダニズムを俯瞰する』中央大学出版部.2018)
- 岡井隆「詩の点滅—現代詩としての短歌(第二部)」(『角川短歌』63-6.2016.5)
- 尾形大「研究動向 伊藤整」(『昭和文学研究』79.2019.9)

- 小川正浩「北園克衛雑記帳⑦ - 左川ちかについて」(『青焰』71号.2011.6)
- 小関素明「巻頭言<小特集>立憲主義の『深層』から『真相』へ - その原素と枢点を見すえて - 」(『立命館大学人文科学研究紀要』115.2018.3)
- 小野夕馥編『LEVOCATION』9「森開社刊行書総目録」(森開社.2010.2) [未見]
- 小野夕馥「詩界温故知新一左川ちかと富士原清一」(『螺旋の器』創刊号.森開社.2018.9)
- 小野夕馥「追懐一曾根博義氏の踵を拜して」(『螺旋の器』1、2018.9) ハリー・クロスビー著・左川ちか訳「EMBRACE ME YOU SAID」1篇収録
- 小野夕馥「編輯後記」(『螺旋の器』2.森開社、2018.11)
- 小野夕馥「温故知新」(『螺旋の器』4.森開社.2019.8) →左川ちか随筆「春・色・散歩」1935年、詩「青い馬」(『越佐詩歌集』版1930年)、伊東昌子「女流詩人の旗」1935年収録
- 小野夕馥「編輯後記」(『螺旋の器』5.森開社、2019.11)
- カニエ・ナハ「詩誌月評 といっしょに踊るために」(『現代詩手帖』59-7.2016.7)
- カニエ・ナハ「詩誌月評 短歌 - 詩 - 俳句 - 詩 - 翻訳 - 詩」(『現代詩手帖』59-11.2016.11) [翻訳]
- 亀井志乃「伊藤整文学アルバム」(伊藤整文学賞の会編『伊藤整文学賞二十五年の歩み』2014)
- 亀井秀雄『小樽『はじめて』の文学史一明治・大正篇一』(市立小樽文学館・小樽文学舎.2014) [北海道]
- 川鍋義一「その根は一吉岡実論2」(『るる』5.現代詩／詩論研究会.2018.10)
- 川村湊「雪と川と林檎園」(伊藤整文学賞の会編『伊藤整文学賞二十五年の歩み』2014)
- 北原美那「早稲田文学増刊女性号について」(『文藝別冊川上未映子』河出書房新社、2019.11)
- 栗原敦編『詩のありかに触れるささやかな試み 詩集』(日本近代文学館企画展「詩のありかに触れるささやかな試み」冊子.2019.11) [合集]参照
- 紅野謙介「文学が再生するとき - 『早稲田文学増刊 女性号』を読んで」(『すばる』40-5.2018.4)
- 斎藤柳光「学校法人城西大学理事長水田宗子の人生ノート『偽らず、欺かず、諂わず』67」(『埼玉新聞』2010年4月21日) [新聞]
- 榊原貴教編『「翻訳詩」事典 フランス編』(ナダ出版センター.2018) [翻訳]
- 坂口博「幻のモダニズム詩人 山中富美子」(『西日本文化』443.2010.2)
- 佐藤弓生「季奏(うそねっと 9)」(『螺旋の器』2.森開社、2018.11) [詩]
- 城西大学編『大学の社会的責任を果たすために 次世代育成・健康推進・グローバル教育への取り組み』(2011)
- 市立小樽文学館『小樽文学館のご案内』(文学館パンフレット.年月不明) [北海道]
- 島田龍「左川ちかを探して(1)「硝子の道」と藤村青一「淡水と気温」」(『螺旋の器』2.森開社、2018.11) 新発見詩「硝子の道」紹介

- 島田龍「詩人の誕生—初期伊藤整文学と川崎昇・左川ちか兄妹」(『立命館大学人文科学研究紀要』117.2019.1)
- 島田龍「海の詩人—伊藤整と左川ちか—「海の捨児」から「海の天使」へ」(『日本思想史研究会会報』35〔桂島宣弘先生定年退職記念特集号〕2019.1)
- 島田龍「左川ちかを探して(2)春山行夫宛書簡から」(『螺旋の器』3.森開社、2019.4)
- 神泉薫「拳玉少年の夢想 吉岡実」(『洪水』13.2014.1／『十三人の詩徒』七月堂.2021に改稿収録)
- 高橋信行「森谷均」(『idea アイデア』354.2012.9)
- 高橋悠治作曲『左川ちか小詩集「海の花嫁」』(肥後幹子リサイタル委嘱初演.2019.11)〔音楽〕
- 高原英理編『ガール・イン・ザ・ダーク 少女のためのゴシック文学館』(講談社.2018.7)〔合集〕
- 谷口哲郎「戦争の地震計としての①藤田文江詩集『夜の聲』(1933)論」(『追伸』3.2019.6)
- 田野倉康一「恐怖かもしれない未来のために」(『現代詩手帖』55-11.2012.11)
- 『Tokyo Poetry Journal』2(2016) 〔翻訳〕
- 戸塚学「女たちのモダニティ2 左川ちか「死の髻」「言葉」—世界を二重化する言葉」(『奏』38.2019.6)
- 中嶋泉「日本戦後美術のジェンダーを考える」(『言語文化』29.2012.3)
- 中原秀雪「春山行夫 覚書 モダニズムの旗手とその悲劇3 『詩と詩論』の創刊と「旧詩壇」あるいは朔太郎への批判」(『αρχη(アルケー)』5・6.2013.12・2014.4／『モダニズムの遠景—現代詩のルーツを探る』思潮社.2017)
- 長山靖生編『ロマンチック・ドリンカー 飲み物語精華集』(彩流社、2019.8)〔合集〕三章
- 蜂飼耳「詩」(『文芸年鑑2017』新潮社.2017.6)
- 福間健二・井坂洋子「福間健二・井坂洋子が撰ぶ100篇」(『現代詩手帖』62-4.2019.03)
- 藤井貞和「現代詩と言葉、近代詩と翻訳—大岡信と中原中也」(『中原中也研究』23.2018.8)〔翻訳〕
- 藤本寿彦「『左川ちか』と名づけられたテキストの魅力」(『螺旋の器』2.森開社、2018.11)
- 藤本寿彦「『左川ちか』と名づけられたテキストの魅力(Ⅱ)—緑色の表現をめぐって—」(『螺旋の器』3.森開社、2019.4)
- 北海道文学館編『「北海道文学館」創立50周年記念特別展 ふみくらの奥をのぞけば 文学館・珠玉の300選』(北海道立文学館.2017) 〔北海道〕
- 本間達洋「桜陽会メモリーズ 左川ちか氏」(『桜陽会報』2011) 〔北海道〕
- 山中剛史「小野夕鶴」(『idea アイデア』368.2015.1)
- 余市町史編纂室編『余市町史5巻 明治2～昭和1』(余市町.2018.4) 〔北海道〕
- 罗 丽杰『茨木のり子・石垣りんの表現空間と戦後女性詩の新境地』(城西国際大学大学院人文科学研究科比較文化専攻博士論文.2018)

- M・H (早川元将) 「本との話 わが左川ちかの価値」(『夜泣き』5.2018.4)
- Toshiko Ellis (エリス俊子) "Woman and the Body in Modern Japanese Poetry" (Lectora: Revista de Dones i Textualitat, Dossier, Mujeres en Asia Oriental No16, coord. Pau Pitarch Fernandez, 2010.1)

【2020年代】

- 浅野敏昭 「余市でおこったこんな話 その203 左川ちか」(『広報よいち』2021年7月号)
- 阿部秀悦 『青猫書房目録 愛書閑話・抄』(私家版.2020.11) [未見]
- 一柳廣孝 「書評 曾根博義著『伊藤整とモダニズムの時代 文学の内包と外延』(『日本近代文学』105.2021.11)
- 伊藤礼 「伊藤整日記第二巻まえがき」(『伊藤整日記』二巻.平凡社.2020)
- 江田浩司 「私の読んだ詩集のお話。IV」(『みらいらん』6.2020.7)
- エリス俊子 「左川ちかの声と身体—「女性詩」を超えて—」(『比較文学研究』106.2020.12)
- 岡和田晃 「言語的なマイノリティ性を「メタファー」に括ってしまわないこと」(『図書新聞』2021.3.13)
- 小関素明 「巻頭言<小特集>新しい日本近現代史研究の模索」(『立命館大学人文科学研究so紀要』122号.2020.2)
- 小関素明 「巻頭言<特集>日本近代国家の基底と外縁」(『立命館大学人文科学研究so紀要』124号.2020.12)
- 小野原教子 「北園克衛とファッション」(『人を着るということ』晃洋書房.2020)
- 川村湊 「文学の揺籃としての汽車旅 山線が育んだ左川ちかの詩心」(『北海道新聞』2022年4月19日朝刊) [新聞]
- 古家昌伸 「再評価される左川ちか 余市出身 夭折のモダニズム詩人」(『北海道新聞』2021.9.28) 『東京新聞』『中日新聞』10月7日夕刊に一部転載 [新聞]
- 紅野謙介 「はじめに一解説に代えて—」(曾根博義『伊藤整とモダニズムの時代—文学の内包と外延』花鳥社.2021.2)
- 左川ちか 「私の夜」(『OTARU Ture*Dure』13.2020.3) [合集]
- 佐藤文香・山田航・佐藤雄一 「俳句・短歌の十年とこれから 現代にとっての詩歌」(『現代詩手帖』64-10.2021.10)
- 佐峰存 「今、目前にひらかれる自由 アメリカ現代詩の最前線」(『現代詩手帖』65-2.2022.2) [本宅]
- 島田龍 「左川ちか年譜稿」(『立命館大学人文科学研究so紀要』122号、2020.2)
- 島田龍 「詩人の終焉 〈詩人の死〉と伊藤整、「浪の響のなかで」から『左川ちか詩集』(1936)へ」(「文学史を読みかえる」研究会編『文学史を読みかえる・論集3』インパク

ト出版会.2020.8)

□島田龍「昭森社『左川ちか詩集』の書誌的考察—伊藤整の編纂態度をめぐって」(『立命館文学』669.2020.9)

□島田龍「左川ちかを探して 百田宗治と『左川ちか詩集』」(『詩と思想』3-401.2020.12)

□島田龍「詩人の罪と罰—伊藤整と左川ちか、「鏡の中」「幽鬼の街」(1937)論」(『立命館大学人文科学研究所紀要』124号.2020.12)

□島田龍「詩人の青春—伊藤整『青春』と左川ちか「昆虫」「死の髻」(『立命館文学』673.2021.3)

□島田龍「詩人の救済—伊藤整と左川ちか、「幽鬼の村」(1938)論」(『立命館文学』674.2021.7)

□島田龍「左川ちか翻訳考：1930年代における詩人の翻訳と創作のあいだ—伊藤整、H・クロスビー、J・ジョイス、V・ウルフ、H・リード、ミナ・ロイを中心に」(『立命館文学』677.2022.3) [翻訳]

□島田龍「詩人左川ちかの肖像」(『左川ちか全集』「解説」書肆侃侃房.2022.4)

□高橋悠治作品集『失われた聲』(コジマ録音.2022.3) 左川ちか小詩集「海の花嫁」(2019):「白と黒」「緑」「雲のかたち」「海の花嫁」「海の捨子」歌：肥後幹子 [音楽]

□鳥居万由実『一九二〇～一九四〇年代の日本の詩における「人間ではないもの」の表象—動物・機械のイメージを中心に—』(東京大学博士論文.2020)

□長山靖生「わたしの蔵書から 小宇宙としての詩集」(『日本近代文学館報』304.2021.11)

□早崎主機「戦前期の詩書を読む 三好達治『南窗集』昭和七年椎の木社」(『現代詩手帖』63-5.2020.5)

□福田滋「音現新譜評『高橋悠治作品集 失われた聲』」(『音楽現代』52-5.芸術現代社.2022.5)

□藤井基二「二〇二一年の日記」(『頁をめくる音で息をする』本の雑誌社.2021)

□真野孝子「戦後女性詩にみるセクシュアリティのトラウマと山姥の表象：吉原幸子と白石かずこを軸にして」(法政大学博士論文2020.9)

□水嶋きょうこ「左川ちか—雪の思念」(『花』花の会.2020.1)

□水田宗子「転換期を生き抜く……永瀬清子—生活者としての山姥」(『詩と思想』403.2021.3)

□宮崎真素美「詩誌『詩学』の世界—はじまりの10年」(『愛知県立大学文字文化財研究所紀要』7.2021.3)

□宗近真一郎「固有なレゾナンスが詩徒たちの普遍性を射抜く 神泉薫『十三人の詩徒』」(『図書新聞』3527号.2021年1月22日)

□山田航「新・北のうた暦」(『北海道新聞』2020年1月14日) [新聞]

□ルッケル瀬本阿矢『シュルレアリスムの受容と変容 フランス・アメリカ・日本の比較文化研究』(文理閣.2021) ※「受容と転用—日本の女性詩人たちによるシュルレアリスム受

容を中心にー」(2011年京都大学博士論文)などをがもとに

□ Irina Holca 『Sawako Nakayasu Eats Sagawa Chika: Translation, Poetry, and (Post)Modernism』(『Japanese Studies』41-3. 2021.12. Japanese Studies Association of Australia) [翻訳]

□ 無記名「透視図 岩見沢の落雪事故」(『北海道建設新聞』2020年12月24日) [新聞]

【HP】

□ 小野夕靄「螺旋の器 rasenn no utuwa」(<https://blogs.yahoo.co.jp/rasennnoutuwa>)

□ 菊地利奈「モダニズム詩と<私>ー左川ちか詩にみる言語実験ー」(滋賀大学経済学部講演会第2回 詩と翻訳ポエトリーリーディングワークショップ 女の詩声.2014.6.発表要旨 / <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/kouenkai2014/20140625.pdf>)